

研究計画書

2023年5月1日

【課題名】 コミュニケーションスキル研修の実施と効果評価

【目的】訪問看護において看護師患者の自立を支援するためのコミュニケーションスキルの向上

【研究の背景】精神科訪問看護では、看護師が患者宅に訪問し、患者と個別に30分以上のケアを提供している。訪問看護では主に、関係性を構築し、患者の困りごとを話し合い、時には精神的苦痛を傾聴し、共感し、時に今後の自立へのための課題を患者とともに抽出し、看護ケアとして計画に挙げる。

訪問看護師の中には、学校教育の中で患者とのコミュニケーションの方法を学んでいない看護師もいるが、精神科の患者の多くは心の問題を看護師と話すことを求めており、患者の求めに応じられない看護師に対して時に苦情としてご連絡をいただくこともある。そこで、当ステーションでは、コミュニケーションスキルトレーニングを実施し、患者とのコミュニケーションスキルを向上させ、患者の看護師への満足度を上げることとした。

【研究者】笑む笑む訪問看護ステーション 代表 中野眞樹子

【研究における倫理的配慮】

- 1.研究の対象となる個人及び家族等の関係者に対する人権の擁護
- 2.研究の対象となる個人及びその家族等の関係者に対し理解を求め、同意を得る
研究に対する説明と同意を文書にて得る。

【研究方法】

- 1.期 間 : 2023.6. 1~2024.3
- 2.対 象 : ①笑む笑む訪問看護ステーションスタッフ
グループ1 : モニタリングチーム(若林、坂本、三条、土田)
グループ2 : 教育チーム (町田、上等、春日、小竹)
②患者対象者 a.各スタッフの担当患者でアンケート調査に同意いただいた患者様
b.各スタッフの担当患者で場面の録音に同意いただいた患者様

3.具体的な研究手順

(患者様に対して)

- ① 患者へ研究内容を説明し、同意を取る
- ② 患者へアンケート調査する（研修前、研修1回目終了後、研修2回目終了後）
- ③ 録音に同意された患者に対して看護場면을10分～20分録音させてもらう
- ④ 場面の逐語を紙面にする
- ⑤ 録音場면을元に、堀越先生よりスーパーバイズを受ける
- ⑥ を2か月で4回実施。
- ⑦ 患者は面接を希望により拒否が出来、主治医は患者の状態を把握し、必要に応じて面接を中止し、患者の状態に責任を持つ。

(看護師に対して)

- ⑦ 事前に対象看護師に本研究の説明を行い、協力を依頼する。
- ⑧ 対象看護師に②と同じアンケート調査を同時期に実施する
- ⑨ 同意を得られた患者にアンケート及び、録音をお願いし、看護場면을録音する
- ⑩ 研修前に患者様の困りごとや、看護師のアセスメントを記入した用紙を用意する
- ⑪ 録音データ、逐語紙面、看護師によるアセスメントを準備して研修に4回出席し、スーパーバイズを受ける

5. 測定用具

- ① 「Scale To Assess therapeutic Relationship - Japanese version (STAR-J) 利用者
(患者) と支援者との治療的関係に関する自己評価式 (利用者版および支援者版) 尺度」

以 上